

11 令和4年度 団体

iwakura-shi siminkatsudou-joseikin
Reiwa 4nendo katsuyou-jisseki-houkokusyu
11 no dantai-ga samazamana-jigyuu-wo okonatta kirokudesu.

活用実績報告集

11の団体が行った事業の記録集

令和4年 4月1日
↓
令和5年 3月31日

通年実施

はじめての
一歩
コース

■メディカルサポートあざりあ



■ナチュラルすまいる@いわくら



市民提案 公益的 事業コース

■プロジェクトスペース「hazi」事務局



■Mugi ストローライフ岩倉



■いわくらい部♪



■おむすび



■岩倉ボランティアサークル



行政提案 協働事業 コース

■いわくらにほんごクラス



■地域のしあわせを考える会



■HLC・ふれあい塾



■一般社団法人はーとプロジェクト
(おりーぷおりーぷ岩倉)



令和 4 年度市民活動助成金活用実績報告集もくじ

1. 令和 4 年度の市民活動助成金制度の説明
2. 令和 6 年度市民活動助成金の応募から実績報告書提出までの流れ

通年実施：令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月

《はじめの一步コース》

3. 医療福祉分野の有資格者による安心して住み続けられる町づくりに貢献する
ボランティア事業 【メディカルサポートあざりあ】
4. 食育を通じて地域貢献 【ナチュラルすまいる@いわくら】

《市民提案・公益的事業コース》

5. いわくらしやすいまちのアート系プロジェクトスペース「hazi」にて、地域社会と文化
芸術の関わりづくりプロジェクト「スタートからいちばん近いゴール（仮）」の実施
【プロジェクトスペース「hazi」事務局】
6. 麦わらを使った「ストロー」作り 【Mugi ストローライフ岩倉】
7. 寺おん×縁日 2022 【いわくらい部♪】
8. 子ども応援事業 【おむすび】
9. 冬のたこたこ！つるつる！キャンプ 【岩倉ボランティアサークル】
10. いわくるくるネットワークを創ろう☆ 【地域のしあわせを考える会】

《行政提案・協働事業コース》

11. 外国人向け「はじめての日本語教室」の実施 【いわくらにほんごクラス】
12. デジタル教室の開催 【HLC ふれあい塾】
13. ひきこもりを対象としたサロンの実施
【一般社団法人はーとプロジェクト(おりーぶおりーぶ岩倉)】

14. 令和 5 年度市民活動助成金活用団体及び活動内容紹介

市民活動助成金についての問い合わせ先

岩倉市総務部協働安全課市民協働グループ（市役所 6 階）

Tel：(0587) 38-5803

e-mail：kyoudou@city.iwakura.lg.jp

市民活動助成金についての相談窓口

岩倉市市民活動支援センター 岩倉市昭和町二丁目 17 番地 市民プラザ内

Tel：(0587) 37-0257

e-mail：city-iwakuraplaza@city.iwakura.lg.jp

令和 4 年度市民活動助成金制度の説明

岩倉市市民活動助成金とは

地域が抱える諸課題の解決を図り、市民の福祉向上やまちづくりに貢献するなど、市民活動団体が主体的に取り組むモデル的な事業に対して財政支援を行い、団体活動の活性化や市民活動の拡充を図るものです。かつ特性を生かして協働するマルチパートナーシップの取組の促進を図っていく制度です。

応募された事業については、目的、事業内容などを公開の場で発表する「企画提案発表会」を経て、助成する団体と助成金の額を決定します。

※市内に拠点のある法人格を有する事業者も応募できるコースができました。

助成の種類及び助成額

① 《立ち上がり支援コース》

新たに立ち上げた公益性を有する団体、設立から 1 年以内の団体の活動の基盤づくりに助成します。

助成回数：1 団体 1 回 **補助金額**：限度額 2 万円 **補助率**：50%以内

② 《はじめの一步コース》

設立から 3 年以内の助成対象団体が行う公益性を有する事業（3 年以上継続予定）に助成します。

助成回数：1 団体 1 回 **補助金額**：限度額 5 万円 **補助率**：90%以内

③ 《市民提案・公益的事業コース》

団体が解決を目指す地域の公共的課題について、自らテーマを設定し提案する公益性を有する事業に助成します。

助成回数：同一事業 最大 3 回 **補助金額**：限度額 10 万円
補助率：50%以内

④ 《行政提案・協働事業コース》

行政があらかじめ設定した（行政課題）テーマに対して、団体が自らの特性を生かして提案する行政と協働で取り組む事業に助成します。

助成回数：同一事業 連続 2 回 **補助金額**：限度額 30 万円
補助率：100%以内

※ 他の団体と協働して行う場合には、②,③コースの補助率を 10%加算します。

◆ 立ち上がり支援コースは、令和 4 年 10 月～令和 5 年 3 月までに実施する事業を、令和 4 年 7 月に追加で募集しましたが、応募はありませんでした。

※ 令和 5 年度の助成団体は、14 ページに掲載されています。

※ 令和 6 年度の募集に関しては、令和 5 年 11 月中旬に公表する予定です。

令和 6 年度市民活動助成金の 応募から実績報告書提出までの流れ

《通年実施事業》

令和 5 年 11 月中旬	: 市民活動助成金説明会 & 個別相談会
12 月上旬	: 申請書類受付 開始
12 月下旬	: 申請書類受付 締切
令和 6 年 2 月中旬	: 企画提案発表会
3 月下旬	: 内定通知
4 月上旬	: 決定通知
4 月～	: 助成金事業開始
事業終了後 30 日以内	: 実績報告書の提出

《下半期実施事業》

令和 6 年 7 月	: 立ち上がり支援コース 追加募集予定
7 月上旬	: 市民活動助成金説明会 & 個別相談会
7 月上旬	: 申請書類受付 開始
7 月下旬	: 申請書類受付 締切
9 月上旬	: 決定通知
10 月～	: 助成金事業開始
事業終了後 30 日以内	: 実績報告書の提出

医療福祉分野の有資格者による安心して住み続けられる町づくりに 貢献するボランティア事業



事業総額 53,515 円 対象経費 53,515 円 助成額 48,000 円

- ・主に消耗品費、備品購入費として利用

◆目的

- ・医療系の専門性をもった団体と行政が連携し、救護支援を行い安全と安心を確保する。
- ・「応急手当普及員」の資格を取得し、市民講習や実際の現場での支援活動を行う。

◆事業報告

【内容】《救護所支援活動》

- ・8/7 (日) 水辺まつり
- ・8/19 (金) 岩倉夏まつり
- ・10/2 (日) 岩倉スポーツ体験フェスタ
- ・11/12 (土)・13 (日) いわくら市民ふれ愛まつり
- ・2/18 (土)・19 (日) 子どもゆめ基金助成活動 2023 いわくら
- ・3/5 (日) 岩倉市民健康マラソン

【成果】

- ・岩倉市役所や市民団体からの要請により、救護所支援活動を実施。
- ・ケガや熱中症などの手当を実施し、イベントを救護の面でサポートした。

◆課題等

【苦勞・工夫・課題】

- ・本年度が初めての活動であった為、主催者の意向と流れを確認しながら現時点で当団体がサポートできる事を実践した。回数を重ねるに事により、何をすべきかをメンバーが個々で判断できるようになり、円滑に活動する事ができた。

【改善等】

- ・活動範囲を広げる為にも医療従事者メンバーを増やす事を最優先にし、引き続き活動を継続したい。

食育を通じて地域貢献



事業総額 74,905 円 対象経費 74,905 円 助成額 34,000 円

・主に会場費、講師料として利用

◆目的

・和食や発酵文化を見直し、健康を保ち、食材を選別する知識をつける。アレルギーの子どもたちの疎外感をなくし、みんなで同じものを食べることができる喜びや安心感を共有する。

◆事業報告

【内容】

- ・5/18 (水) まったりい〜わお話し会 設立の経緯や、これからの活動についての説明
- ・7/31 (日) 地元岩倉産野菜でいわくら健幸スイーツを作ろう
- ・9/28 (水) い〜食井戸端会議「食品表示の裏側を見る」 持ち寄った空袋の食品表示を見る
- ・10/19 (水) 畑で畝建て、種まき (ほうれん草、小松菜、スナップエンドウ、カブ)
- ・11/30 (水) 硝酸態窒素 (多量に含まれていると人体に影響を及ぼすもの) について
- ・2/17 (金) 煮大豆から作る楽ちん味噌づくり講座 ・前記以外に4回、セミナー等開催

【成果】

- ・自然農法、有機農法について知った方が、自分でも野菜を育ててみたいという声があった。
- ・土づくりの重要性、自然農法や有機農法が環境にやさしく、持続可能な手段であることを理解する人が増えた。

◆課題等

【苦勞・工夫・課題】

- ・苦勞：イベントの周知、広報について。適切な広さの会場探しや必要な道具を揃えること。
- ・工夫：他団体の協力を得た。
- ・課題：畑の駐車場の確保。

【改善等】

- ・市の広報にも掲載してもらおう。・来年度の助成金で必要な道具の購入を計画。
- ・いろんな人を巻き込んで、市全体で着目してもらおう。
- ・畑作業は駐車場確保できないため、乗り合いしてもらったり、徒歩や自転車で来てもらう。

いわくらしやすいまちのアート系プロジェクトスペース「hazi」にて、地域社会と文化芸術の関わりづくりプロジェクト「スタートからいちばん近いゴール（仮）」の実施



事業総額 220,511 円 対象経費 220,511 円 助成額 100,000 円

・主に謝礼、備品購入費、印刷製本費として利用

◆目的

- ・文化芸術において地域社会の潜在的価値を発信し、アートを基点として多様な人々が交流。
- ・人と人の交流だけでなく、情報交換やネットワーク構築へ発展、地域社会の魅力を再認識する。

◆事業報告

【内容】

- ・1月～12月 3名のアーティストを招聘、滞在制作や展覧会、アートイベントを行う。
- ・4/12（火）～5/30（月）中崎由梨個展「ō fuku」来場者 55人
- ・7/9（土）～8/22（月）湯浅要個展「書きながら忘れる」来場者 62人
- ・10/25（火）～11/28（月）福永みくら+中崎由梨+湯浅要「スタートからいちばん近いゴール」来場者 74人

【成果】

- ・本町をフィールドに名古屋芸術大学などとも連携し、多様な展覧会やイベントを開催。
- ・空き家をまちの資源として生かし、アーティストがこのまちに滞在・リサーチして制作された作品を発表。
- ・今後の文化芸術を支える担い手を育む場としても機能した。

◆課題等

【苦勞・工夫・課題】

- ・「現代アートはよくわからない」という考え方や入りづらさの根本的な払拭までには至らなかった。
- ・年齢制限を設けていたわけではないが、親子連れへの配慮が欠けていた。

【改善等】

- ・子供向けのワークショップなどにも取り組みたいと考えている。
- ・様々なジャンルや年齢の人が関わりやすいイベントを開催していくことで、個人ベースで「アートを通したまちづくり」を行っていきたい。

❖ Mugi ストローライフ岩倉

麦わらを使った「ストロー」作り



事業総額 90,240 円 対象経費 90,240 円 助成額 44,000 円

- ・主に消耗品費、会場使用料として利用

◆目的

- ・遊休農地に麦を栽培することにより農地保全が行われ、麦の茎を使用したストローを作る
ことによりプラスチックゴミ削減を行うことができ、環境保護・地域活性に繋がりたい。

◆事業報告

【内容】

- ・体験：5/21・22・28、6/4・5 麦刈り、ストロー作り体験、10/22 種まき
- ・取材：5/21 スターキャット・中日新聞社、9/22 ラジオ収録
- ・イベント：5/29 寺おん x 縁日 2022、6/28 助成金 de 交流会、9/11 志段味図書館講演会、7/31 SDGs 江南 EXPO 出展、10/6・7・8 SDGs AICHI EXPO2022 出展、11/13 環境フェア 出展
- ・会議：3/18 総会

【成果】

- ・ストロー作りにも慣れ、各種出店やラジオ収録もあり充実した活動でした。
- ・麦わらストローは使い捨てられているのが現状であり、使用済みのストローを回収して再生する事業を考案中。

◆課題等

【苦勞・工夫・課題】

- ・麦わらストローも現時点では使い捨てられているのが現状。
- ・団体の認知度の向上を図るため、SNS 以外にも展開したい。

【改善等】

- ・使用済みストローを回収し、弊団体で煮沸消毒・個別梱包を行う再生事業に取りかかる。
- ・実現できれば、新たに麦わらストローを作る本数および、作付け面積も減らすことができる。
- ・認知度向上のため、ドローンを使用した空撮事業の参入を考案中。

寺おん×縁日 2022



事業総額 73,061 円 対象経費 73,061 円 助成額 29,000 円

・主に謝礼、印刷製本費、備品購入費として利用 協働団体：HappineSS

◆目的

- ・地域の居場所としてお寺を会場に、音楽の演奏や自己実現ができる生きがいを持つ人を増やす。
- ・お寺に人が集う機会が増え、地域のコミュニティを取り戻すきっかけとなる。

◆事業報告

【内容】

- ・5/29（日） 長遠寺及び夢さくら公園 10:00～15:00
- A) 夢さくら公園にて縁日マルシェ開催 市民活動団体の活動紹介ブースではミズベリング岩倉 五条川、Mugi ストローライフ岩倉の出展有り
- B) 長遠寺本堂から境内に向けて音楽ライブ開催
- C) 長遠寺境内、お寺内で遊びと食を中心とした縁日マルシェ開催
- D) 岩倉総合高校の生徒を含むボランティアで音響、ブース管理、駐車場、会場案内など担当

【成果】

- ・演奏者には演奏を披露する場所を、地域の人には気軽に音楽に触れる場所を提供できた。
- ・参加した人から今後、岩倉総合高校生徒とコラボしたいとの声も聞かれた。
- ・お寺が地域に開かれ、普段から気軽に立ち寄れる地域の居場所として感じてもらった。

◆課題等

【苦勞・工夫・課題】

- ・夢さくら公園での音出しが NG となり、縁日会場に人が巡回しなかった。
- ・イベント会場が2つあることの周知不足。
- ・元児童遊園を駐車場にしたことで、車での来客受入数が昨年よりも改善された。

【改善等】

- ・お寺会場と公園会場のつながり、特に公園会場への誘客に大きな課題があり、会場をつなぐため、のぼり等の設置やスタンプラリーのようなもので、人の流れづくりが必須。
- ・主催者からボランティアの役割を明確に伝えられるよう仕組みづくりが必要。

❖ おむすび

子ども応援事業



事業総額 246,466 円 対象経費 246,466 円 助成額 67,000 円

・主に消耗品費、会場使用料、備品購入費として利用 協働団体：コミュニティカフェかがよひ

◆目的

- ・子どもの小さな声を拾って、自主性をはぐくむ場をつくる。元気な子育て世代を増やす。
- ・学区に一つの子ども食堂ができれば、子どもの居場所が増えて様々な支援につながる。

◆事業報告

【内容】

- ・4/5（火）から 毎週火曜日（祝日を除く）
子ども食堂 47 回実施（1 回はフードパントリーのみ）
場所：いわくら大地の里の家
平均来場数：大人 10 人子ども 22 人
内容：学びの講座、国際交流、防災クッキング、季節のイベント（平均子ども 10 人）
- ・3/28（火）卒業撮影会（親子 11 組）最終活動日

【成果】

- ・継続的に野菜をくださる農家さん（岩倉市・北名古屋市）とつながることができた。
- ・イベントでは他団体さんの力を借りて、新しいイベントに挑戦ができた。

◆課題等

【苦勞・工夫・課題】

- ・調理が忙しすぎて、外遊びの見守りがなかなかできない状況があった。
- ・来場人数が増加したことで、子どもの様子への目の届かなさが気になった。

【改善等】

- ・もう少し広く子どもの様子が見られるようにするため、人数や時間の調整を考える。
- ・親を巻き込んで、協力をお願いした結果、ボランティアの増員になり解消した。
- ・自分の子どもだけでなくお互いの子ども達の様子を見守ってもらうように提案する。

❖ 岩倉ボランティアサークル

冬のたこたこ！つるつる！キャンプ



事業総額 79,917 円 対象経費 79,917 円 助成額 27,000 円

・主に謝礼、郵便代、消耗品費として利用

◆目的

- ・冬場の凧揚げやうどん作りという「和」を取り入れた、伝統文化に触れるきっかけを創り出す。
- ・参加した子どもたちに役割や協力することの大切さなどに気付くきっかけづくりをする。

◆事業報告

【内容】

- ・1/29（日）青少年宿泊研修施設「希望の家」 10:00～16:30 参加者 35 人
- ・内容：「和」をテーマとした日本の文化を取り入れた体験活動
- ・プログラム：班別レクリエーション、うどん作り、凧あげ作り、凧あげ
- ・3/29（水）反省会・アンケート結果振り返り

【成果】

- ・全体の時間がコンパクトに収まっていたため、飽きることなく体験を実施することができた。
- ・自分の手で 1 からうどんを作ることができると知れてわくわくを感じてもらうことができた。凧作り・凧あげについても自分の好きなものを形にし飛ばすという、現代ではあまり行われなくなってしまった遊びを体験して、楽しんでもらうことができた。

◆課題等

【苦勞・工夫・課題】

- ・うどん作りにおいては、班の中で 2 人 1 組で作成をする形式とし、まわりと進み具合を確認しながら行うことで班内の結束力も高まった。
- ・希望の家の外の広場の面積に限りがあるため、少人数順番での凧あげとなった。

【改善等】

- ・試作や研修の段階で、プログラムの内容や時間配分などをもう少し練る必要がある。
- ・今後実施内容に合わせた会場の検討を行う必要がある。また、イベント途中での場所移動も視野に入れて計画を立てることもできると考える。

いわくるくるネットワークを創ろう☆



事業総額 190,332 円 対象経費 173,682 円 助成額 90,000 円

・主に謝礼、会場使用料、印刷製本費として利用 協働団体：ナチュラルすまいる@いわくら

◆目的

- ・信頼できる情報を簡単に入手でき、安心して交流やコミュニケーションをとれる環境をつくる。
- ・自分とは違う文化や世代の人に対する理解や思いやりを持てる人が増え、安心安全な町に。

◆事業報告

【内容】

- ・7/9 (土)「町内会ワークショップ」町内会について知り考える 参加者 15 名
- ・7/2 (土)・12/2 (金)「古代小麦プロジェクト」麦刈り・種まきを行う 参加者 14 名
- ・6/26(日)・7/31(日)「いわくら健幸スイーツ」地産物で作る食べる 参加者延べ 25 名
- ・1/7 (土)「つながる・いわくら・スゴい人」身近な凄い人と繋がる交流会 参加者 120 名
- ・フェイスブックグループ 24 時間誰でも見られる岩倉の情報 メンバーは約 350 名

【成果】

- ・他自治体での取組を参考に岩倉市でできる事を話し合えた。
- ・広い土地で種まき、麦刈りなど収穫ができた。農家と消費者のつながりや交流ができた。
- ・岩倉出身の活躍している方のプロフィールや生き方や活動を紹介し、応援していく。
- ・情報を共有したことで、知り合いが増えて、コメントで交流もでき閲覧者数も増えている。

◆課題等

【苦勞・工夫・課題】

- ・ワークショップを行ってもアイデアで止まってしまう。
- ・畑仕事は畑の状態や天気次第なため、日程調整が難しく集客に苦勞した。
- ・岩倉総合高等学校調理部に協力依頼したが実現できなかった。

【改善等】

- ・ワークショップから出たアイデアをまとめて、行政や町内会に提案する。
- ・収穫時期は梅雨の為、候補日を何日か用意して参加者を募る。
- ・周知には、中日新聞や回覧板に掲載してもらえた。

❖ いわくらにほんごクラス

外国人向け「はじめての日本語教室」の実施



事業総額 299,428 円 対象経費 299,428 円 助成額 299,000 円

・主に謝礼、人件費、消耗品費として利用

◆ 目的

- ・日本語が話せず、地域社会に溶け込めなかったり、生活に苦労したりしている人が市役所、学校、職場等で相談したり、町で日本人と話をするチャンスを生み出す。

◆ 事業報告

【内容】

- ・日本語教室の実施 下記期間の土曜日、10:30～12:00、市民プラザ多目的ホール
第1期 5月～6月(全8回)、第2期 12月～1月(全8回)
- ・サポーターミーティング 5/21、11/26、3/4、3/25(土)
- ・防災講話(講師:協働安全課防災安全グループ) 9/3(土)
- ・交流会 10/1(土)(お絵かき伝言ゲーム等)、10/29(土)(ポッチャ等)
- ・視察 2/28(火)(豊田市・TIA にほんごひろば)

【成果】

- ・自分が伝えたいことを伝えられる、生活でクラスの学びが活かされていることが伺えた。
- ・教室が、居場所としての役割も担っているのを実感した。
- ・日本語サポーターも、多文化共生に対して、より積極的になるきっかけができた。

◆ 課題等

【苦労・工夫・課題】

- ・ボランティア経験、日本語教室運営の実績がある人に事前に相談することで、企画時やトラブル時にスムーズに対応できたと思う。
- ・サポーターミーティングをすることで、アイデアを得たり価値観を共有した。

【改善等】

- ・WEB ツールを使いながら円滑に企画運営をして、サポーターの積極的な参加も促したい。
- ・学習者や外国ルーツの人の意見は常時収集し、ニーズに合った教室を目指す。
- ・イベントは、予算や人的に難しいため国際交流協会や他の市民団体と協業を目指したい。

❖ HLC・ふれあい塾

デジタル教室の開催



事業総額 192,702 円 対象経費 192,702 円 助成額 192,000 円

・主に消耗品費、通信費、人件費として利用

◆目的

・デジタル化が進む一方、その波に対応できず、情報弱者となり取り残されていく市民を手助けする。対応できる市民が増えれば、市民へのサービスを効率的に行なうことができる。

◆事業報告

【内容】

・9/8（木）～1/26（木） 4回開催

内容：スマホの取り扱いを基礎から習得できる講座

場所：総合体育文化センター・岩倉市防災コミュニティセンター

参加者数：第1回14名、第2回13名、第3回12名、第4回10名（合計49名）

【成果】

- ・難易度は高かったが、約60%の人が理解できた。
- ・指導を希望する内容や進め方の方向が把握できた。
- ・指導講師のレベルアップが図れた。

◆課題等

【苦労・工夫・課題】

- ・受講生の反応に可能な限り答えられる自信が付いた。
- ・講座の途中で特定の質問者に時間が多く割かれてしまう傾向も強くあり、真に理解が得られたかどうか不明なこともあった。

【改善等】

- ・来年度は、用語理解を軸としてスマホの基本習得を進め、グループ分けによる相談会方式を展開し個別の要望を吸い上げる。
- ・偽メールなど特殊詐欺の事例を幅広く紹介し啓蒙を進める。

ひきこもりを対象としたサロンの実施



事業総額 203,195 円 対象経費 203,195 円 助成額 203,000 円

・主に旅費、消耗品費、備品購入費、会場使用料として利用

◆目的

・不登校児を抱える家族の問題に寄り添える居場所づくりが必要。気軽に相談ができる場所をつくり、将来の就労や生活に結びつけ、生活保護や精神的な二次疾患になる確率を減らす。

◆事業報告

【内容】

- ・5月～3月 毎月第4土曜日 場所：おりーぶおりーぶ岩倉
内容：ペアレント・トレーニング、ドッグセラピー、個別相談、グループワークなど
- ・11/11（金）：講演会（配慮が必要な子どもたちへの支援～育ちとともに・親子講演）
内容：土崎幸恵さんとあつくんによる講演
- ・参加人数：概ね保護者5～6名、子ども4～5名、その他関係機関の方2～3名

【成果】

- ・今まで悩みやストレスで不安な日々だったお子さんとのかかわり方が分かり、心にゆとりができた、困りごとが小さくなった。手探りの家族にとって見通しがついて良かった。
- ・夫婦の役割を含めた関わり方や、本児の特性について理解を促すことができた。
- ・親御さんが安心して参加することで、お子さんもついて来るようになった。

◆課題等

【苦勞・工夫・課題】

- ・使用施設が音を反響しやすく、聴覚過敏のお子さんにとって少し辛い思いをさせた。
- ・聴覚過敏をはじめ、食の過敏症等、配慮しないといけないことを聞き取っていなかったことが反省点。

【改善等】

- ・音の反響を抑えるために、ポケット携帯型のタイプのマイクに切り替えた。
- ・提供していた菓子類についても小麦等が入っていない等、お子さんの状況に合わせた配慮を行う。

令和5年度 市民活動助成金活用団体及び活動内容紹介

番号	助成回数	団体名	事業名	内容
◇はじめの一步コース(設立して3年以内の団体が、一步踏み出すためにチャレンジする公益性を有する事業)				
1		グラッチェ	アミーゴスキッチン	岩倉に住むブラジル人と日本人の児童の交流を主軸に、ブラジルの協力者とオンラインでつなぎ、ブラジルの料理や文化に関する交流を行う。
◇市民提案・公益的事業コース(団体が解決を目指す地域の公共的課題について、自らテーマを設定し提案する公益性を有する事業)				
2	1/3	ミズベリング岩倉・五条川	五条川でSUPを広めよう!	五条川でサップウオークの体験会を行う。また、サップを使い、五条川下流部の清掃を行う。 ※SUPとは「Stand Up Paddleboard」の略称で、ボードの上に立ち、パドルを漕いで水面を進む、ハワイ発祥のウオータースポーツ。
3	1/3	メディカルサポートあざりあ	医療福祉分野の有資格者による安心して住み続けられる町づくりに貢献するボランティア事業	市民活動団体として、水辺まつりや夏まつりなどの救護所支援を実施して、参加者の安全・安心をサポートする。
4	1/3	岩倉ボランティアサークル	ワクワク!大きなみんなのおさるのまち!	アニメ(絵本)「おさるのジョージ」の世界をヒントに、子どもたちが想像力を駆使し協力して取り組む「おさるのまちづくり」やバナナのお菓子づくり等を行う。
5	2/3	いわくらい部♪	寺おん×縁日2023	「お寺」での音楽ライブと、夢さくら公園での縁日型マルシェの地域密着イベント『寺おん×縁日2023』を開催する。
6	2/3	おむすび	子ども応援事業	子どもおむすび食堂を毎週火曜日に実施する。また、子どもたちの楽しい経験を増やすイベントや、子どもと大人の学び場として勉強会を行う。
7	2/3	プロジェクトスペース「hazi」事務局	R.E.Award (Residence&Exhibition Award)	アーティストが滞在して美術作品を制作する様子を公開するオープンスタジオを行い、普段見ることができない「作品になる前の作品」に触れる機会を設ける。また、市民向けの展示会等を行う。
8	3/3	地域のしあわせを考える会	いわくるくるネットワークを創ろう☆	市民に役立つ情報を誰でも入手できるSNSを介したネットワークをつくる。また、町内会をテーマにしたワークショップ、岩倉出身の著名人のトークイベント、岩倉産スイーツづくりなどを行う。
◇行政提案・協働事業コース(市が解決を目指す行政課題について、あらかじめ設定したテーマに基づき、団体が自らの特性を生かして行政と協働で取り組む事業)				
9	2/2	いわくらにほんごクラス	外国人向け「はじめての日本語教室」の実施	日本語がほとんど話せない外国人を対象に、初期レベルの日本語教室を対話型学習にて行う。
10	2/2	HLC・ふれあい塾	スマホ活用支援講座の開催	デジタルに不慣れな市民に対し、スマートフォンやタブレットを利用して、生活に必要な情報収集やオンライン手続きができるようにするため、地域で講習会を行う。
11	2/2	一般社団法人はーとプロジェクト(おりーぶおりーぶ岩倉)	いわくら・みんなのサロン	不登校など様々な事情でひきこもる子ども等が相談できる場をつくる。ドッグセラピーや子ども等が利用しやすいイベント(親子クッキング)を行う。また、保護者向けの研修会等を行う。



つなく 支える 育てる

市民活動支援センター

岩倉市市民活動支援センター



- 住 所 / 〒482-0011 岩倉市昭和町二丁目17番地
- TEL・FAX / (0587)37-0257
- 開館時間 / 9:00-21:30 ■ 休館日 / 年末年始
- メールアドレス city-iwakuraplaza@city.iwakura.lg.jp
- ホームページ <http://www.iwakura-plaza.jp/shimin/>



岩倉市市民活動支援センター で検索してください

メールマガジン登録はコチラから iwakura_ad@lww.ne.jp



facebook 岩倉市市民活動支援センター

twitter @iwakuraCSC

Instagram iwakura_csc

LINE @ysw7371u